

# Kiko

コペンハーゲン

## 気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012  
 〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 半蔵門サウスビル2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463  
 E-mail: kyoto@kikonet.org (京都) tokyo@kikonet.org (東京) URL: <http://www.kikonet.org/>

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

### 鳩山首相のリーダーシップに世界が期待！！

会議も4日目。本格的な交渉が非公式な場では始まりつつある。そんな中、1日1日と日を重ねるごとに、長らく待たされている日本の途上国支援の資金に関して、いよいよ提案がなされる！と世界の期待が高まっている。

9月の国連気候首脳会議において鳩山首相自らが“鳩山イニシアチブ”と名付けた、新政権による途上国支援が、一体いつ、どんな形で、どれぐらいの資金として提案されるのか、会場では、高まる期待感を背景に、さまざまうわさも飛び交っている。

これについては、8日の国会の審議から、明日11日(金)の関係閣僚会議で議論するということが明らかになっている。ということは、発表はもう間近、週末にも現地入りするとみられる環境大臣が間もなく発表するかもしれない。

先進国が途上国の緩和(削減対策)と適応対策を進めるために先進国が供与する「資金」とそれを捻出する「しくみ」に合意することは、今回のコペンハーゲン合意の重要な要素の一つである。だからこそ、それを認識した「鳩山イニシアチブ」の立ち上げは、機を得た提案であり野心的だと評価をされた。今、特に注目が集まるのは、まだ明らかにしていない2つの点である。

1点は資金額。2013年以降の枠組みで、日本はどれぐらいの資金額が必要だと認識し、そのために日本としてどれぐらいの追加的な資金を拠出する用意があるの

か、そして、2012年までの短期間にも緊急対応としてどの程度の資金を用意するのか？(これがこれまでのODAの運用の一環に終わったり、追加的なものと説明できなかったりするようでは、逆に失望を買うだろう)

もう1点は、資金を、予測可能な形で創出するメカニズムについて何を支持し、何を提案するのかという点だ。すなわち、国際航空税を提案するのか、国際排出枠の一部をオークション化することを提案するのか、あるいは、日本国内でこれから導入予定のキャップ&トレードの排出量取引制度や地球温暖化対策税から得られる財源の一部を途上国支援と位置付けるのか？(もし何にも言及されなかったら、裏付けのない提案だといわれてしまうだろう)

明日の日本の関係閣僚会議において、この2点について日本から野心的な提案が決定されることは、交渉を大きく加速する可能性を秘めている。それほどにこの交渉全体における日本の資金提案は重要な位置を占めている。

小沢環境大臣、そして鳩山首相がリーダーシップを発揮し、地球温暖化対策への強い政治的意思を示す絶好のチャンスでもある。11日の関係閣僚会議では、もう残された時間のない気候変動対策を、日本が取り組むことを改めて確認してほしい。そして、日本の野心的な方針を再確認し、それをCOP15にぜひ持ち込んでほしい。

これを受け、日本のNGOは、毎日その日の交渉の進展に関する記者ブリーフィングを行っている。12月9日は、鳩山イニシアチブへの国際社会の関心の高まりを受け、バングラデシュのジアル・ホック・ムクタさんをスピーカーに招いて鳩山イニシアチブへの期待を表明した。ムクタさんはOxfamバングラデシュで活動し、2007年から同国政府代表団入りしている。以下はムクタさんの発言だ。

狭い国土に人口がひしめくバングラデシュは、人口密度は世界で最も高く、国民の40%は貧困ライン以下で暮らす後発開発途上国だ。

バングラデシュは後発開発国グループは先進国に対して、先進国全体で2020年までに90年比で-40%の削減、先進国全体のGDPの1.5%にあたる年間2兆ドルの途上国支援を求めている。先進国はミレニアム開発目標の達成に向けて年間GDPの0.7%を供与すると約束した(ほとんどの先進国はその約束を守っていない)気候変動のための支援は新規で追加的であるべきだ。つまり既存のGDPの0.7%に1.5%を加え、合わせて2.2%の資金を拠出する必要があるということだ。

わが国はすでに、異常気象や気候パターンの変化などの深刻な気候変動にさらされている。その被害は地域でいえば海岸部、川中島、湿地帯で大きく、社会の構成員でいえば女性や子どもを直撃している。2年前には、超大型サイクロンの襲撃を受け、数百万人が被害を受けた。今年5月にはシャキラ郡に通常のサイクロンが襲来し、数百人が死亡し、数千人

が国内避難民となった。8 か月たった現在も、帰郷できた人はいない。被災地の復興には 10 億ドルの費用が必要だ。Oxfam ら 6 団体は、国際社会に支援を要請したが、支援に応じた国は 1 か国もなかった。通常のサイクロンの復旧にさえ 10 億ドルかかるのだから、緩和と適応を合わせた途上国支援には膨大な資金が必要だということがわかるだろう。

先進諸国は経済危機の対策に 8 兆ドルの公的資金を出したが、人道支援である途上国の気候変動対策 2 兆ドルの拠出には消極的だ。その突破口を開くのは日本だ。バングラデシュ国民は、日本政府が野心的な中期目標を掲げ、途上国支援のための鳩山イニシアチブを発表したことを喜んだ。そして、この政府なら気候変動に脆弱な国の草の根の声に耳を傾け、その要請に応えるものと信じている。

12 月 8 日、英国のガーディアン紙が、このプロセスの外での動きとして噂になっていた文書をリークした。

## デンマークは本当に 何かが腐敗している

最近、噂が飛び交い交渉に暗雲を投げ掛けていたが、ようやく公に出た。評判の悪い「デンマーク文書」（現在、ラスムーセン文書と呼ばれている）が白日の下にさらされたのだ。長い間、私たちはこのような文書はないと言われてきたが、eco は、世界とともに、本当の合意の代わりに文書が存在することを知った。

さらに、このテキストを作りあげる過程は致命的に欠陥がある。デンマークのラスムーセン首相は、このことを教訓とし、次に進まなければならない。

他方、オープニング・プレナリーにおけるコニー・ヘデゴー氏のスピーチの最初の言葉は、「私は耳を傾けるし、透明性を担保している」であった。デンマークには、期待されるべき、より腐敗していない何かが存在するのだろうか？

eco はデンマークのラスムーセン首相に、このことに、二度と触れないようにしてほしいと強く希望する。そし

て私たちに、透明性が担保され、公開された過程によって交渉が継続されることを可能にしてほしい。こうした過程では、最も貧困に苦しみ、脆弱な国を含む全ての参加国は無視されてはならない。脆弱な国々の声の合唱により、私たちは公正、野心的で拘束力のある成果を得るための遙かに良いチャンスを持つことになる。

漏洩された文書は、公正でも野心的でもない。さらに、途上国を支援するために必要な資金や技術について期待に沿うものでもない。今や白日の下に晒されたこの文書は、すでに一つの致命的な過ちであり、法的拘束力のある成果のための信頼性ある足掛かりとはならない。

デンマーク文書は私たちに、各国が互いに誤った方向で交渉を始めると、いかに見苦しいことになるのかという警鐘を鳴らしてくれた。eco は、真に公正、野心的で、拘束力のある合意を達成するために、交渉官や大臣が互いに挑戦する新たな日を期待する。

(eco12/9 抄訳)

## ユー・ガット・メール

eco は、バルセロナで、政府代表団に世界中からメールを送る新しいサービスの開始を公表した。このサービスによる最初のメールの受信者は、良く名前知られた政府代表だった。彼は、「貧しい人々は石油を消費できない」ことを思い出させるメールを受け取った。

またつい最近、eco は、このサービスで発信している情報の漏洩を知らされた。これは「ハッキング」ではないか？漏洩されたメールは最高機密レベルの情報で、もし COP15 の会議開催中の二週間に、温暖化懐疑論を支持するような言及がされるようなことがあれば、コペンハーゲンの会議場は「大ブーイング」につつまれることになるだろう。この違法なハッキングのケースが、とある政府代表による発言（いみじくも先の代表と同じ人）につながっているようだ（懐疑論の内容そのものであった）。彼は、「人類の活動と気

候変動の因果関係」に疑問を呈するようなコメントを行った。あえて、ここでその著者の母国は IPCC の「政策決定向け要約」の全ての文章を承認している、ということ確認しておきたい。

(eco12/7 抄訳)

## 気候ネットボランティア も現地入り

気候ネットワークのボランティア 7 名が京都から現地入りしている。

COP15 が始まる前に行われたユースの会議 (COY) への参加を始め、数々の活動を行っている。そのうちの一つ、ブースについて紹介したいと思う。

COP15 の会場内に世界から様々な種類の団体がブースを出展している。その中で私たちは世界の若者 (ユース) との交流を図りながら、COP15 に対する彼らのメッセージを集めている。集めたメッセージは世界地図に貼り、若者が COP15 に注目していることをアピールしている。

先進国の中ではアメリカやフランスなどから来ている若者がメッセージを書いてくれているが、インドやフィリピン、台湾などのアジアの国も地図において目立っている。他にもアルジェリアやケニアといったアフリカの若者やアルゼンチンやトリニダードなど、世界各地からこの COP15 に思いを抱き、集まっていることが分かる。

そんな様々な国から来ている若者であるが、共通して見られるメッセージがある。「It is time」だ。「今こそ！」私たちは動かなければいけない、変わらなければいけない、決めなければいけない……。そんな思いが地図に集結してきている。

COY で感じた「何かが変わる」という感触は、確信へと近づいている。

毎日のボランティアの活動は、ブログで随時更新中。

<http://www.kiconet.org/blog/journal/>

## Kiko COP15/COPMOP5 通信 No.2

2009 年 12 月 10 日発行

川阪京子、佐藤由美、澤木千尋、田浦健朗、堀井宏祐希

川阪 京子 現地携帯: +45-52-64-50-25